

冊	子	目	録
	落	穂	拾
			い

「移民資料整理のひとこま」

ボンチャルジン区会金銭取扱帳

1941～1946年分 1冊

付：戦勝デマニュース（手書き）

1枚

『日系移民資料コレクション非図書資料内容一覧（稿）』の一頁である。帳簿に挟み込まれていた紙片を作業中に偶然見つけ、付記としたが、それが利用者の目に止まった一例である。この様な経験からもう少し詳細に全てを見る必要があったのではないかと悔も残っているが、ともかく「南米移民資料収集7カ年計画」（『国立国会図書館月報』No.343参照）で収集した資料のうち、図書、逐刊物、小冊子、写真帳、マイクロ化資料以外の種々雑なものへの窓が開かれたことに安堵している。

活字以外の資料の整理は未経験であったので、日記、書簡、帳簿、パスポート、写真、聞き取りカセットなどをどの様に扱ってよいのか見当がつかなかったが、幸に、昭和62年末に課の同僚が資料収集のための予備調査にカナダ、アメリカ合衆国、メキシコに出張し、UCLAの事務用検索ツールのサンプル・コピー、カナダ国立公文書館の文書類収納箱などを持ち帰った。これらをヒントに、いろいろ考えた末、資料はホルダーに挟み、いくつかのホルダーを特別注文の箱に収め、箱——ホルダーに一連番号をふることにした。ホルダー毎に挿入した資料の

内容表示をA6型カードに列記し、この手書きカードのコピーを一連番号順に綴った。350頁ほどの内容一覧であるが、今後利用に供しながら補足訂正してゆきたい。閲覧は平成2年6月から開始したが、これらの資料に関係する方々の名誉、プライバシーの保護への注意を喚起して、閲覧許可申請書を提出して貰っている。

一連の作業を通して、活字資料では味わえない移民生活の一端を知ることが出来、印象に残る人々にも出会った。次のお二人を紹介する。

田辺定（明37生、東京都出身、昭2年渡伯）

主な資料：神奈川丸移民輸送日誌、出発時の母による準備品覚え書き、ブラジル時局認識運動宣言。戦中を除き、家族を始め、高浜虚子、大佛次郎等多くの友人知人の書簡があり、戦後邦人社会の混乱状況の中で認識運動に携わった。因に哲学者田辺元、洋画家田辺至は実兄である。

小林美登利（福島県出身、大10年ニューヨークより渡伯）

主な資料：聖州義塾設立趣意書、義塾日誌大14～昭9年、伯国福島県人会記録（1951～1961）。1925年サンパウロに聖州義塾創設、1958年ブラジル全線単独調査によって『渡伯五拾周年福島記念誌』を刊行するなど、常に教育問題、在伯県人の生活に関心を持ち続けた。

日本の故郷に帰った品々に会うため、時折寄贈者本人や家族がこれら移民資料を所管している「特別資料室」を訪れる。ブラジル語を話す三世にも出会った。移民研究者ばかりでなく、関係者の方々にいつまでも思い出していただきたい資料群である。

（特別資料室 鈴木満佐子）